

湯川地区 津波対策 平面図

(S-4-1)津波避難協力ビルの指定数増加
(S-5)避難タワーの設置検討

護岸(市)
現況高 6.25m

(参考)レベル1津波
必要防潮堤高さ
T.P.+7.5m

ハード対策

- ・レベル1津波による浸水を防ぐための護岸整備(かさ上げ)および北川・伊東大川河口部の水門整備は実施しない

ソフト対策

- 【避難ビル】
 - ・「地震開錠キーボックス」の設置(S-4-2)
 - 【情報連絡(事前準備)】
 - ・津波避難計画作成
 - ・総合防災ガイドブック(ハザードマップ)全戸配布
 - ・避難行動要支援者避難支援計画(個別計画)作成
 - ・自主防災会ごとの津波避難行動計画作成
 - 【情報連絡(発災後)】
 - ・Jアラート(全国瞬時警報システム)
 - ・同報無線(防災行政無線)
 - ・伊東市メールマガジン
 - ・テレビ(テロップ)・ラジオ
- による
情報入手
- 「災害用伝言ダイヤル171」の活用による安否確認

避難開始時間および避難時の移動速度を速める

(S-2)津波避難方向の
路面標示等の充実

湯川護岸(市)
現況高 6.25m

	護岸(現況維持)
	広域避難場所
	津波避難協力ビル
	指定避難所
	津波浸水想定区域外への避難路
	レベル2津波浸水エリア
	避難困難地域

(体育館) ● 広域
避難場所
北中学校

ホテル伊東パウエル

伊東駅・湯川保育園
(浸水区域内のため
避難不可)

シーサイドセンチュリー21

湯川護岸
現況高 4.0m

(S-4-1)津波避難協力ビルの指定数増加
(S-5)避難タワーの設置検討

※「避難困難地域」は、ソフト対策の実施により避難開始時間短縮および避難時の移動速度を速めた場合でも避難が困難と思われるおおよその地域を示しています。